

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2021年

10月

194号



◇子孫繁栄は家庭教育が本
後ろ姿と口ぐせ教育で育てる!

宗教法人 真生会

仏の種を育てよう！

『一人が一人、仏縁にお誘いしよう』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声がけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）



(真生寺お祭り広場にて)

彼岸は

変化の時

猛暑の夏から秋に

厳寒の冬から春に

大きく変化します。

変化に善悪はありません。

すべては

移り変わりながら

生成発展していくのです。

緊急事態宣言下で彼岸法要

九月十九日、二十日に総本山真生寺、大阪教会、名古屋教会で彼岸法要が行われた。今回もコロナ対策として代表役員のみで厳修された。



於真生寺、会長先生のご真教法話



於大阪教会、谷口副会長法話



於名古屋教会、土川教会会長

大観音祭り / ライブ配信で開催 !!

日時 / 10月24日 (日) 午前10時~12時

会場 / 総本山真生寺

☆岐阜教会会員は、真生寺に直接参拝ください！

☆各教会・遠隔会員は教会、各自のリモート参拝！

開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁

たなか ひと



著者も年金をもらう年となり、お年寄りに
思い切ったことを申し上げ、自らも老人とし
て優等生の努力をするものです。

「ご飯ですよ」「ハイ」「お風呂ですよ」「ハイ」と返事はしても「ハイ、
ありがとう」とはなかなか言っていない。「ありがとう。ありがたい」
が一日に何十回も言える人は毎日が充実し、楽しい日々である。

高齢化社会、長寿国となった日本、このままで将来は大丈夫でしょ
うか。老人が徳一杯の生活をして、徳を使い果たしてしまったら、子
孫はどうなるのでしょうか。

子孫のために徳を蓄え、残してやる老人にならなければなりません。
老人の考え方が明るい家は子孫が栄えます。愚痴の少ない、施しの強
い老人のいる家は平和で円満である。
(1998年、真実に生きる105号より)

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
たなか つねひと



◇総供養の意義

眞生会では家族を一本の木に譬たとえて、根っこは先祖、夫婦は幹、子孫は枝葉ととらえ、毎年四月の立教祭で「先祖報恩総供養」十月の大観音祭りで「子孫繁栄総供養」をします。春先に先祖という根っこに感謝の肥料を蒔まき、収穫の秋には枝葉である子孫に幸せの実がなるように徳積みをするのです。この総供養は先祖と子孫でセットです。根っこだけでも、枝葉だけでも大木には育ちません。

今年十月二十四日に大観音祭りを開催し、祈りを捧げます。特別な祈願供養のある方は、大観音胎内仏供養もありますから、詳しくは総本山、各教会にお尋ねの上、お申込み下さい。

◇子孫の繁栄は家庭教育が本

子孫が繁栄するには、徳積みと同時に家庭教育が大切です。今や学校教育は学歴偏重、受験のための学習が中心で人間教育はほとんどないに等しく、ましてや学習塾は受験のための技術しか教えません。だから、頭は良くても応用力、社会性という人間力が身に付いてないままで社会人となり、人間関係がうまく出来ず、仕事の辛さに耐えきれず、自分探しという名目のもとに次々と転職を繰り返して、果ては精神を病む若者が増えているのが現実です。

社会の風潮が高学歴、一流企業、高収入が人生の幸せと勘違いし、小さな頃から学習塾やスポーツクラブや習い事などに通わせ、それにかかる高額な費用を得るため夫婦共稼ぎの家庭が大半となり、子育ての手抜きをしてきた結果がニートやノイローゼ、引きこもりの子供達が増えているのではないのでしょうか。本当に子や孫がその子の特性を生かし、繁栄していくためには家庭教育、両親の深い愛情と手暇こそが根本なのです。

「父母恩重経」の中に、児は母の懐を寢所となし、母の膝を遊び場となし、母の乳を食物となし、母の情を生命となす。・・・母は児を見て歡び、児は母を見て喜ぶ。両情一致、恩愛の洽きこと、復た此れに過ぐるものなし。飢えた

るとき食を求むるに、母に非ざれば食らわず。渴かわけるとき飲料を求むるに、母に非ざれば飲まず。母に非ざれば養われず、母に非ざれば育てられず。

二歳、父に非ざれば、火の身を焼く事を知らず。母に非ざれば、刀の指を墮おとす事を知らず。

三歳、乳を離れて始めて食う。父に非ざれば、毒の命を落とす事を知らず。母に非ざれば、薬の病を救う事を知らず。・・・

家庭教育での父母の役目は大きいのです。

◇後ろ姿と口ぐせ教育で育てる

「やってみせ、言つて聞かせて、させてみせ、誉ほめてやらねば、人は動かじ」という山本いそろく五十大将（旧日本海軍の司令長官）の名言があります。

子供は親の言つた通りには育ちませんが、やつた通りに育つのです。信仰心を持たない人が増えていますが、新家しんや・分家ぶんけで神棚や仏壇の無い家に育つた子は、神仏に手を合わせ先祖供養やお供えすることを知りません。たとえ本家でも親が手を合わせることをしていなかったら、子供は手を合わせません。

だから、真生会では新家分家の方でも仏さまを祀まつることを奨励しょうれいしています。

(※うちには死んだ人がいないから仏壇を祀らないという新家分家の人がいますが間違いです。仏さまと亡くなった先祖とは違います。すべての命を生かして下さる宇宙の大生命である御本仏を祀るのが仏壇です。)

後ろ姿の実践だけではなく、次に大切なことが「口ぐせ教育」です。人は知っていること、学んだことしか実行できません。

「弱い者いじめは絶対してはいけません。困っている人がいたら助けて上げなさい。」

「ウソについてははいけません。約束はちゃんと守りなさい。」

「集合時間に遅刻はしてはいけません。みんなに迷惑をかけないように十分前集合です。」

「靴は揃えて上がりなさい。席を立つ時、イスはテーブルの下に戻しなさい。」

「挨拶をしつかりすること。お世話になったらお礼を言うこと。間違つたと気付いたら素直に謝ること。」など、人としてのマナーや考え方は、繰り返し繰り返し、口ぐせのようにして教え、心に刻むことです。「三つ子の魂百まで」の諺のように人間形成に大きな影響を与えます。

◇家庭環境の重要性

いい子が育ち、平和な家庭となり、一家が繁栄するかどうかは、玄関とトイレと台所を見れば大体わかります。整理整頓や掃除の行き届いていないゴミ屋敷のような家や部屋で育った子には、必ず問題が起こり、いい子は育ちません。

「家の乱れは心の乱れ」小さな子がいる家庭は、毎日のように部屋がおもちゃで散らかり、戸障子としょうじが破けたり、家具が壊れたりすることは仕方ありませんが、散らかしつ放し、壊れつ放しにしておくことが、良くないのです。散らかってでも毎日一緒に片づける、壊れたら応急修理でもいいからすぐ治す。

玄関は家の顔ですから、靴はちゃんと揃えそろ、必要以外の靴は出来るだけ片付けてこざっぱりしておく。トイレの便器に染みや汚れが付かないようにこまめに掃除をする。台所の壁やレンジ周りが油污れでギラギラしないように、炊事が済んだら毎日拭き取ること。特にアパートや借家住まいの人は、大家おおややオーナーに喜ばれるように、きれいに大切に使用していると、家に徳が積めて必ず新築の家や一戸建ての家に住むことができます。

何よりも、家庭が平和で円満ひまになる秘訣ひけつです。

◇徳で住む家、お金で住む家

昔、古屋ふるやに住んでいた貧乏なご家庭がありました。主人は収入が少なく、あまりうだつの上がない人でしたが、法座を開き大勢の人に法を伝え家に徳を付けられました。そして、奥さんが掃除魔といわれるほど、古い家でしたが徹底的に磨き上げ、古い板張りのトイレも黒光りするほど磨き上げて見えました。

しかし、主人に家を建て替える力はありませんでした。息子さんも中卒で学歴はありませんでしたが、技術を身に付け、若くして独立して成功し、瞬く間に立派な新築の家に建て替えられました。

誰でもローンで新築の家に住むことは出来ませんが、後々ローン返済きゆうきゆうに窮々きゆうきゆうとしなければならぬのはお金で住む家です。

お金は無くても、開祖さまのご指導に従い、大家おおやを喜ばせ、狭い借家をきれいに大切に用いていたあるご夫婦も、道路拡張による立ち退きを契機けいきに、貯金ほとんどありませんでしたが、兄弟親戚のお祝いや勤め先の社長の応援で新築一戸建てに住めるようになったご家族もあります。これを徳で住む家ということです。行えば実る、誰でも実行すれば実現するのです。

釈尊物語

⑭

◇◆我が子の死を乗り越える◆◇

キサー・ゴータミーは貧しい家に育ち、やせ細り貧相な女性であった。結婚し一子を授かったが、貧しく苦しい生活は続き、ある日突然夫が死に、続いて最愛のわが子までが亡くなり、彼女はすべての生き甲斐を失い、死児を抱いて街をさまよい続けました。

その時、彼女はお釈迦さまに出会ったのです。「女よ、何を求めて歩いているのか」と釈尊に声をかけられて、彼女は「大徳よ、この子を生き返らせる薬が欲しいのです」と言った。

すると、釈尊は「大丈夫、心配することはない。私が死児を生き返らせる薬を作つてあげよう！」

これから町の家を訪ねて、いまだかつて死人を出したことの無い家から芥子けしの種をもらつてきなさい。そうすれば、生き返る薬を作つてあげよう」

生気を取り戻した彼女は、やつれた身に鞭打むちつて一軒一軒訪ね歩き、教えられたように芥子の種を求めました。しかし、どこに行つてもそのような芥子の種は得られませんでした。芥子の種を所蔵している家は多くありましたが、いまだかつて死人を出したことはないという家庭はどこにもなかったのです。

ある家では、親を失つたといひ、また

ある家では、子に先立たれたと言った。

彼女と同じように、夫に死なれた妻もあつたし、子を失つたといつて涙ぐむ母もありました。

キサー・ゴータミーは足が棒のようになるまで家々を訪ね、日が没しようとしたその時、ハツと気付いたのです。

いまだかつて死人を出した事の無い家などこの世のどこにもあり得ないということ。

その瞬間に、天と地がまったく新しくなり、人生も人の世のありようも、まったく新しい色合いをもつて覆おおわれたように思えたのです。彼女は新しい力をみなぎらせてブツダの所へ馳はせ参じました。

それは、死児を生き返らせてもらうた

めではなく、この偉大なる師のもとで、教えを学び、新しい人間に生まれ変わるためでした。

「女性たることは苦なりと、かの人間の教師はのたまえり」

人間は誰もが苦しい。生老病死の苦を担になっているからである。だが、その中において、釈尊ご在世当時のインドでは、女性として生きることことは、殊ことの外ほか苦しいことであつたに違いない。

※この娑婆世界は「一切皆苦」が真理です。苦を逃たげたり、嘆なげいたりせず、仏さまの教えを学び、正しく受け止め、八つの正しい道に生きることことで苦を乗り越えることができるのです

今月の運勢（11月）

（2021年11月7日～12月6日）

一 白水星

困難が重なり大きな試練の時だが、苦難に鍛えられ人間的深みが増す。水は低きに流れる特徴がある。一白の謙虚さを失わず、くじけず真心を込めて最後まで貫けば、天意に守られ願い事は叶う。

二 黒土星

周囲との協調と調和、温もりを大切にすること。信頼できるリーダーに尊敬心をもって素直な心で従えば何事もうまく行く。柔軟性と力強さがポイント。馴れ合いには注意。

三 碧木星

突然の予期しない出来

事に驚いて右往左往しないこと。平素から

しっかりと信仰心を養っておけば動揺はない。何が起きようと自分を見失わず泰然としていれば福が来る。

四 緑木星

大きな流れに自然に従って行けばいい。信頼できる大人や先輩の懐ふところに飛び込み、素直で謙虚な気持ちをもって付けて行けば安心。しかし、大きな事を望むと失敗する。

五 黄土星

何か大きな事を成す時ではない。中心にどっしり腰を据えて、自ら動くことよりも周囲の

様子をよく観察し、後継者育成のために相手を育てることに力を注ぐとよい。

六 白金星

物事の完成充実の時。迷わず一貫性をもって今まで進めてきたことを完成させること。余計なことを考えず、何が起きてもあるがままに受け止め、たんたんと前進を続けること。

七 赤金星

人と心を通じ合い助け合うことで願いは通る。言葉で人を喜ばせ、自らも楽しく笑うことで益々運氣が向上する。人に媚こびたり、邪よこしままな喜びは避けるこ

と。真の悦びは努力の結果得られるもの。

八 白土星

徹底して欲の心を止めること。何事にも私欲を離れ無心に取り組めば成功する。周囲がめまぐるしく動いても、心に信念を保ち、一々心を動かされたり、迷ったりしないこと。

九 紫火星

互いの正しい関係を守れば何事もうまく行く。それには相手の言葉によく耳を傾け謙虚な気持ちで受け止めること。太陽と月がセツトとなって地を照らすように、叡えい智と優しさを人を包むこと。

「まごころ誌代」御礼

細谷早予子	某女	斎藤玲子	加納優子	高橋身衣
樋口容子	三村南央斗	長井常子	加納悠貴	五島由美
樋口恵美子	谷口祐晟	亀井善二	加納宏樹	多田祥子
池澤幸代	谷口祐子	家安久子	加納快志斗	鈴木光隆
今井純司	坪井佑介	桑原聖子	大竹宏実	横井富男
笹原トミ子	奥田佳代	澤 君美	加納啓至	横井志奈子
笹原正子	坂本育身	澤 芳子	多田佳央	松尾定洋
林田哲嘉	堀田純子	松本裕樹	宮田雄貴	土川順寛
東島佑樹	宮島りえ	福元正子	宮田裕加里	土川恭代
東島杏実	荒木敬依子	岸本周夫	笠井和樹	土川康二
東島杏衣	平口富子	多田敏春	笠井隼太	土川廣美
村上規佑記	出田 溪	多田正幸	笠井稜介	横山知津子
滝山恵依子	永田雅子	多田道子	田中庸仁	半澤照子
三村千佳	大下裕子	大橋順子	田中佑季子	安田初子
片桐淳子	岸本昌子	早野起世	亀井善広	伊東 晃
今園達也	東森敦巳	豊田直正	亀井由実子	佐藤百々枝
今園雄太	四日市某	豊田真悠子	田中啓予	佐藤光洋
今園花菜	滝本光夫	平工初子	田中宏明	水田祐記子
松下栄暉	京川春男	小谷恭代	田中宏明	永縄佳子
松下祐侑香	鈴木正巳	黒田京子	足立恵衣子	堀部恭利

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもって感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

失ったものを数えるな

残されたものを最大限に生

かせ

(パラリンピックの父グットマン博士)

愚者は

無いものを嘆き

賢者は

今有るものに感謝し活かす

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
T E L 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
T E L 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
T E L 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒454-0808 | 名古屋市市中川区九重町 3 - 10
T E L 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送りします。詳しくはお尋ねください。